

## 第4回角田市上下水道事業運営審議会会議記録

日時：令和8年3月24日（火）午後1時30分～午後2時30分

場所：角田市役所301会議室

出席委員：荒木委員、古積委員、島津委員、高橋委員、鈴木（淑）委員、笹木委員  
以上6名

事務局：上下水道事業所長、参事兼技術次長、事務次長、経営管理係長、経営管理係主事

傍聴者：なし

### ○内容

#### 第4回審議会

#### 3 議事

事務局より次の内容について説明が行われた。

- (1) 水道事業アセットマネジメント計画及び経営戦略について
- (2) その他

説明後、会長より委員へ質問、意見等について諮られ、以下のとおり受け答えが行われました。

会長 冒頭の計画と実績の比較説明で、R4年度とR5年度のマイナスが多いことについて。

事務局 江尻取水場の解体などが発生したため。

委員 他会計補助金について、計画に対して実績がゼロの場合があることについて。また、減価償却に計画と実績が乖離している場合があるが、おおよそ予測できる点だと思うが。

事務局 他会計補助金については、水道高料金対策の基準に該当しなかったため。減価償却については、工事の進捗により変動がある。また、長期間の計画であることから乖離がある。

委員 企業債の用途について。

事務局 水道管の新設や更新などの財源。

委員 企業債と補助金が財源であり、修繕やその他の費用は料金収入で賄っているのか。

事務局 お見込みのとおり。

委員 企業債収入が多くなる（事業費用に対して）ことはないのか。また、企業債が借

- りられない場合、市から資金を入れるようになるのか。
- 事務局 ない。また、資金については、独立採算制により、まずは料金をあげることになる。
- 委員 広域化について、難しいと思うが、柴田町などとなるのか。
- 事務局 現在は進んでいない。県が広域化のステップを少しずつ進めている状況。
- 委員 組織の見通しについて、民間の巻き込みや、その場合のデメリットなど。
- 事務局 PPP を進めている。メリットとしては職員を減らすことができ、10年間など長期的に事業を行うことが出来る。デメリットについては、災害や緊急対応、倒産、職員の技術継承などがある。
- 委員 角田の水について、枝野と七ヶ宿だけなのか。
- 事務局 阿武隈川からの取水と七ヶ宿になる。
- 委員 パブリックコメントの回答について、市のお金も投入してよいと考える。水は命に関わるものであり、ふるさと納税を活用するなど。水道料金だけでは成り立たないのではないか。
- 事務局 国の操出基準があり、一部を市から貰っているものもある。市のお金を投入するとなると、高台などで水道を使用していない方からの負担にもなってしまう。
- 委員 税金は均等に使われるわけではないと思うが、自宅で使用しなくても出先で水は使用しているのではないか。また、検針を2か月に1回にすれば費用が安くなるのではないか。
- 事務局 検針について、毎月行くと漏水を早期に発見しやすいという面や経営的に毎月の収入があるとやり繰りがしやすい点もある。
- 委員 七ヶ宿の水が9割ということだが、どのエリアが該当するのか。
- 事務局 枝野浄水場の水にも広域水道からの受水を混ぜて温度調節などしている。
- 委員 3. 11の時の取水について、放射能の検査など。
- 事務局 水質検査を現在まで継続して行っている。
- 委員 丸森町の水はどうなっているのか。
- 事務局 丸森町は広域水道を使用しておらず、4つ程度の浄水場が点在しているのではないか。

#### 4 答申

- 委員 答申内容について、物価の上昇に関することを追記すべきではないか。

・委員の意見により答申に「物価の上昇を勘案し」を追記した。

答申書：別添のとおり、市長に対して答申が行われた。

市長より御礼

水道は生活に欠かせないものでありますが、更新には多大な費用がかかります。水道の持続可能と安定経営を目標に市民の生活の根本である水道事業について、官民連携やデジタル化など工夫を行い、積極的な値上げではない事業展開を行ってまいります。